

福祉サービス自己評価問題集
保育園の自己評価

令和
評価
実施日 7年3月31日
一ツ葉 保育園
高橋正樹

実施年月日

実施者名

福祉サービス自己評価の問題集(宮崎)
一ツ葉 保育園

- 2 理由も解って業務を行っている
- 1 だいたい理由を理解して業務を行っている
- 0 理由は分からないが、覚えた業務を実施している理由が分からないので実施していない

理念・基本方針 17問

問題	評価の着眼点	判定
Ⅰ－１－(Ⅰ)－① 理念や基本方針を策定し、職員、利用者等に周知している。	□保育所（法人）の理念、保育理念、基本方針が文書（事業計画等の事業所内文書や広報誌、パンフレット等）に記載されている。	2
	□保育所（法人）の理念及び保育理念から、保育所が実施する福祉サービスの内容を踏まえた保育所の使命や目指す方向、考え方を読み取ることが出来る。	2
	□基本方針は保育所（法人）の理念、保育理念との整合性が確保されている。	2
	□基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	2
	□理念や基本方針を会議や研修会において説明している。	2
	□理念や基本方針の周知を目的とした実践テーマを設定して会議等で討議の上で実行している。	2
	□理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	2
	□理念や基本方針をわかりやすく説明した資料を作成する等、より理解しやすいような工夫を行っている。	2
	□理念や基本方針を保護者会や地域の自治会等で資料をもとに説明している。	2
	□地域へ向けて、理念や基本方針、保育所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅰ－２－(Ⅰ)－① 理念や基本方針に沿った事業計画を策定し、職員、利用者等に周知している。	□ 事業計画が、理念や基本方針に基づいて策定されている。	2
	□ 事業計画には、各年度における事業内容な具体的に示されている。	2
	□ 事業計画は、数値化が可能なものについては、数値目標を設定することによって実施状況の評価を行えるかどうかについて配慮がなされている。	2
	□事業計画が単なる「行事計画」になっていない。	2
	□計画の策定が一部の職員だけでなく、組織的に行われている。	2
	□年度終了時はもとより、年度途中にあっても、事業計画の実施状況の把握・評価を行っている。	2
	□事業計画を保護者等へ分かりやすく説明している。	2
	□事業計画の職員等への周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	2
小計		36

経営状況の把握 8

問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－１－(Ⅰ)－① 事業経営を取り巻く環境を把握している。	□社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握するための方法をもっている。	2
	□子どもの数や世帯構成等について、保育所が位置する地域での特徴・変化等を把握している。	2
	□在園児の分析を行い、園の利用状況や通園エリア等の把握を行っている。	2
	□把握された情報やデータを基に、園の現状分析を行い、目標を策定している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－１－(Ⅰ)－② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	□定期的に収支の進捗状況について把握している。	2
	□決算書類等を職員に積極的に開示する等、経営状況を職員に周知しており、業務改善等について、職員からの意見を求めたり、話し合う場を設け、職員にコスト意識を持たせているとともに、課題発見に努めている。	2
	□管理者は、経営や業務の効率化や改善のために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	2
	□予算は、発見した課題に基づき、事業の必要性を十分考慮した上で、策定している。	2
小計		16

地域との交流・連携 9問		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－４－(Ⅰ)－③ 関係機関等との連携が適切に行われている。	☐ 子どもの保育の様々な場面に対応できるよう、当該地域の関係機関・団体について、その機関・団体との連携の必要性を含めたリストや資料を作成している。	2
	☐ 職員会議で説明する等職員間で情報の共有化が図られている。	2
	☐ 医療機関、児童相談所、民生委員・児童委員や自治会等の地域団体等関係機関・団体と連絡会等を行っている。	2
	☐ 小学校との間で、小学生と園児が行事等で交流する機会や職員間の話し合いなどの連携の機会がある。	2
	☐ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、照会、通告を含む児童相談所など関係機関との連携体制が整備されている。	2
	☐ 地域の関係機関・団体とのネットワーク化に取り組んでいる。	1
	☐ ネットワーク内で共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	1
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－４－(Ⅰ)－④ ボランティア受入れに関する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	☐ ボランティア受入れに関する意義・方針を明文化している。	2
	☐ ボランティア受入れに関する意義・方針を会議等で職員に説明している。	2
	☐ ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	2
	☐ ボランティアに対して必要な研修を行っている。	2
小計		20
管理者の責任とリーダーシップ 7		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－３－(Ⅰ)－① 保育所全体のサービス内容について自己評価等の体制を整備し、評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	☐ 施設長は、保育サービスの質の向上に意欲を持ち、その取組に指導力を発揮している。	2
	☐ 定例の会議を含め、年間を通じて職員から提案を募集するか、又は定期的に（年に複数回）意見を聞くための場を設け、保育の質の向上や改善のための取組を行っている。	2
	☐ 定められた評価基準に基づいて、年に1回以上自己評価等を行っている。	2
	☐ 評価に関する担当者が設置されている。	2
	☐ 評価結果を分析・検討する場が、組織として定められ実行されている。	2
	☐ 職員の参画により評価結果の分析を行っている。	2
	☐ 分析した結果やそれに基づく課題が文書化されている。	2
	☐ 職員間で課題の共有化が図られている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－３－(Ⅰ)－② 自己評価等により、課題に対する改善策・計画を立て実施している。	☐ 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	2
	☐ 改善策や改善計画の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて計画の見直しを行っている。	2
小計		20

人材の確保・要請 23問		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－２－(1)－① 職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善するように努めている。	☐ 職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータ、疾病状況を定期的にチェックしている。	2
	☐ 把握した職員の意向・意見や就業状況チェックの結果を、分析・検討している。	2
	☐ 分析した結果に基づき、職員の業務軽減などの改善策を講じている。	2
	☐ 改善策については、人材や人員体制に関する具体的なプランに反映し実行している。	2
	☐ 定期的に職員との個別面接の機会を設ける等、職員が相談をしやすいような組織内の工夫をしている。	2
	☐ 希望があれば職員が相談できるように、カウンセラーや専門家と連携している。	2
	☐ 総合的な福利厚生事業を実施している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－２－(2)－① 研修に対しての基本姿勢が示され、個別職員に対しての教育・研修計画を策定し、実施している。	☐ 組織が目指す保育サービスを実施するために、基本方針の中に、組織が職員に求める基本姿勢や意識を明示している。	2
	☐ 現在実施している保育サービスや目標を踏まえて、基本方針の中に、組織が職員に求める専門性を明示している。	2
	☐ 職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されている。	2
	☐ 個別の職員の知識、技術水準、技能の必要性などを把握している。	2
	☐ 策定された教育・研修計画に基づき、実際に計画に従った教育・研修が実施されている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－２－(2)－② 職員研修の評価と見直しを行っている。	☐ 研修を終了した職員は、報告レポートを作成している。	2
	☐ 報告レポートや当該職員の研修後の業務等によって、研修成果に関する評価・分析を行っている。	2
	☐ 評価・分析された結果を次の研修計画に反映している。	2
	☐ 評価・分析された結果に基づいて、研修内容やカリキュラムの見直しを行っている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－２－(2)－③ 研修を受けた内容や結果を職員全体に周知させ、保育業務に反映している。	☐ 研修を終了した職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、研修内容を全職員に周知している。	2
	☐ 職員が受けた研修内容を保育業務に反映している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－２－(3)－① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	☐ 実習生受入れに関する意義・方針を明文化している。	2
	☐ 実習生受入れに関する意義・方針を会議等で職員に説明している。	2
	☐ 実習生の受入れについて、受入れについての連絡窓口、事前説明、オリエンテーションの実施方法等の項目がマニュアルに記載されている。	2
	☐ 受入れにあたっては、保育士養成校との覚書を取り交わす等によって、実習における責任体制を明確にしている。	2
	☐ 実習指導者に対する研修を実施している。	2
	☐ 保育士養成校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	2
小計		48

安全管理 29問		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－① 緊急時（災害、事故、感染症、食中毒発生時等）に対応できるマニュアルがあり、保護者への通知と連携の体制がある。	☐ 施設長は子どもの安全確保の取組について、リーダーシップを発揮している。	2
	☐ 子どもの安全確保に関する担当者を設置している。	2
	☐ 担当者等を中心にして、定期的に安全確保に関する検討会を開催している。	2
	☐ 検討会には、現場の職員が参加している。	2
	☐ リスクの種類別に、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	2
	☐ リスクの種類別に、対応マニュアル等を作成し職員に周知している。	2
	☐ マニュアルは定期的に見直しが行われている。	2
	☐ マニュアルに基づく職員に対する研修が行われている。	2
	☐ 感染症に関するマニュアルの整備、職員研修等は、嘱託医、看護職または地域の保健所等の専門機関、専門職員による指導、指示を受けて実施している。	2
	☐ 緊急時の発生状況を保護者や全職員（非常勤職員を含む。）に通知している。	2
	☐ 保護者や全職員に対する通知の際、発生した感染症に関する早期発見や早期対応の実際、予防対策をあわせて通知している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－② 園児の安全確保のためのリスクを把握し、安全確保に向けた具体的な取組を行っている。	☐ 園内で起きた事故の原因追及を行い、再発防止のための課題発見や施策を行っている。	2
	☐ 社会で起きた大小の事故の例をもとに、マニュアルに加筆し、保育方法や内容にそれを反映している。	2
	☐ 収集した事例について、職員の参画のもとで発生要因を分析し、未然防止策を検討している。	2
	☐ 職員に対して、事故防止に関する研修を行っている。	2
	☐ 事故防止策等の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	2
	☐ 事故防止のためのチェックリスト等があり活用している。	2
	☐ 「ヒヤリ・ハット」等の事例を活用している。	2
	☐ 子どもたちに対する安全教育を定期的実施している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－③ 虐待の対応時のマニュアルを作成し、関係機関等に通告を行う体制が整っている。	☐ 職員に対して虐待が疑われる子どもの特徴をはじめ、虐待に関する理解を促すための取組を行っている。	2
	☐ 児童虐待を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。	2
	☐ マニュアルに基づく職員研修を実施している。	2
	☐ 日頃から嘱託医、地域の児童相談所、福祉事務所、児童委員、保健所や市町村の保健センターなどの関係機関との連携を図るための取組を行っている。	2
	☐ 児童虐待の照会、通告にあたっての連絡先を明示している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－④ 調理場、水廻り、調乳室、調乳設備等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施している。	☐ 施設長等管理者は衛生管理の取組について、リーダーシップを発揮している。	2
	☐ 子どもの安全確保に関する担当者を設置している。	2
	☐ 担当者等を中心にして、定期的に衛生管理に関する検討会を開催している。	2
	☐ 衛生管理マニュアルを作成し職員に周知、研修を行っている。	2
	☐ マニュアルに基づいて衛生管理が適切に実施され、定期的に見直しを行っている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－⑤ 不審者の侵入時等に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知している。	☐ 不審者の侵入時における対応マニュアルが整備されている。	2
	☐ 警察等との連携のもとでマニュアルに基づく職員に対する研修が行われている。	2
	☐ マニュアルは定期的に見直しが行われている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－３－(1)－⑥ 日々の保育の中で健康管理についてはマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握している。	☐ 既往症や予防接種の状況について常に保護者から情報を得られるように努めている。	2
	☐ 子ども一人ひとりの健康状態に関する情報が関係職員に周知されている。	2
	☐ 体調のすぐれない子どもについては、その日の過ごし方について柔軟に対応している。	2
	☐ 必要に応じて、保育所での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	2
	☐ 子どもの体調悪化・けが等についてはとくに留意して保護者に伝えている。	2
	☐ 健康管理に関するマニュアルがある。	2
小計		76

利用者本位の福祉サービス 33問		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－４－(1)－① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	□子どもの保育と地域との関わり方について、子どもの社会体験や地域の中での子育ての視点から基本的な考え方を文書化している。	2
	□活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で保護者等に提供している。	2
	□子どもが地域の行事や活動に参加する機会があれば職員やボランティアが援助を行う体制が整っている。	2
	□地域の人々に向けた、保育所や子どもへの理解を得るための日常的なコミュニケーションを心掛けている。	2
	□民生委員・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取組を行っている。	2
	□中高生などの保育体験を受入れるに当たり、受入れの意義や方針が全職員に理解され、受入れの担当者も決められている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅱ－４－(1)－② 地域住民の育児支援のために施設の利用や情報提供をしている。	□保育等について、専門的な講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等開催して、地域へ参加を呼びかけている。	2
	□子育て情報を地域に提供している。	2
	□パンフレットや要覧等を園児の保護者以外にも配布している。	1
	□園外向けの掲示板やポスター等で、園の様子や行事などについて、地域の人に見てもらえるようにしている。	2
	□ホームページや情報誌など誰もが容易に入手できる形態の広報媒体がある。	2
	□園の運営状況等についての情報を求めに応じて公開できるようにしている。	2
	□関係機関・団体との連携に基づき、具体的な子育てニーズの把握に努めている。	2
	□把握した子育てニーズに基づいて、電話・ファックス・来園による子育て相談窓口、障がい児やその家族等に対する相談支援事業、子育て支援サークル、地域の保健所や保健センター等と連携した支援事業等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－１－(1)－① 利用者へのプライバシー保護に関する規定・マニュアル等を整備し、その実際を行っている。	□利用者のプライバシー保護について、規程、マニュアル等の整備や、施設・設備面での工夫等、組織として具体的に取り組んでいる。	2
	□利用者のプライバシー保護に関する基本的知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・意識、利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	2
	□規程・マニュアル等に基づいたサービスが実施されている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－２－(2)－① 利用者からの意見・要望等に対して、受入れの環境が整い、迅速に対応している。	□保護者が、複数の相談方法や相談相手の中から自由に選べることを、わかりやすく説明した文書を作成している。	2
	□保護者等に、その文書を配布したり、わかりやすい場所に掲示している。	2
	□保護者の意向に関する調査を定期的に行っている。	2
	□保護者が必要としている情報を提供している。	2
	□相談や意見を述べやすいように配慮している。	2
	□意見や提案を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討について規定したマニュアルを整備している。	2
	□対応マニュアルに沿った取組がなされており、意見や提案のあった保護者には、検討に時間がかかる場合も状況を速やかに報告している。	2
	□対応マニュアルの定期的な見直しを行っている。	2
	□意見等を保育の改善に反映している。	2

問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－２－(2)－② 苦情解決の仕組みが確立し、迅速に対応するとともに苦情の経過と園としての姿勢や対応を公開している。、	□苦情解決の体制（苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置）を整備している。	2
	□苦情解決の仕組みを説明した資料を保護者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。	2
	□苦情への検討内容や対応策を、保護者等に必ずフィードバックしている。	2
	□苦情を申し出た保護者等に配慮した上で、苦情内容及び解決結果等を公開している。	2
	□苦情を保育の改善に反映している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－３－(2)－①利用者に関する記録の管理体制が確立している。	□記録管理の責任者が設置されている。	2
	□利用者の記録の保管、保存、廃棄に関する規程が定められ、管理が実際にされている。	2
	□保護者等から情報の開示を求められた場合に関する規程を定めている。	2
	□記録の管理について個人情報保護と情報開示の観点から、職員に対し、教育や研修が行われている。	2
	□発育発達状況、既往症、感染症等の発病状況については個人名等の公表をしていない。	2
	□守秘義務の遵守を職員に周知している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－３－(2)－② 日々の保育状況と家庭の保育状況との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	□家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	2
	□記録にばらつきが生じないための工夫を行っている。	2
小計		177
サービスの開始・継続 15		
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－１－(1)－② 利用希望者の保育所選択においては、必要な情報を提供している。	□組織を紹介したホームページを作成するとともに、現状にあった修正・更新を行っている。	2
	□理念や、保育サービスを紹介した資料を、公共施設等多数の人が手にすることができる場所に置いている。	2
	□保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	2
	□見学、体験利用等の希望に応じている。	2
	□サービスの選択においては、強制的・画一的にならないような取組をしている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－１－(1)－③ 入園にあたり、保育サービスの内容や家庭との連携、保健や健康管理等を利用者に説明し同意を得ている。	□利用の説明にあたっては、保育サービスや料金等が具体的に記載された説明資料等を用意して、保護者に説明している。	2
	□説明にあたっては、保護者が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	2
	□利用開始にあたっては、保育サービスや料金等について保護者等の同意を得た上でその内容を書面で残している。	2
	□保育サービスの選択については、強制的・画一的にならないようにしている。	2
	□資料の内容は、わかりやすいように工夫している。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－１－(1)－④ 入園時に、子どもの生育歴、既往症、発達状況、家庭状況や課題を把握するために、保護者面接と子どもの観察を行い、保育に生かしている。	□入園時に、子どもの生育歴、既往症、発達状況、家庭状況等を把握するため、保護者面接や子どもの観察を行っている。	2
	□利用開始後も入園の際に把握した状況等を確認するため、保護者面接や子どもの観察を行っている。	2
	□面接や観察の結果を記録している。	2
	□把握した結果に基づき、子ども一人ひとりのニーズや課題が明示され、保育に生かしている。	2
	□把握の方法等について定期的見直しの時期と手順を定めている。	2
問題	評価の着眼点	判定
Ⅲ－１－(1)－⑤ 家庭への移行等にあたりその後の保育の継続性に配慮した対応を行っている。	□保育が終了した後も、組織として保護者等が相談できるように担当者や窓を設置している。	2
	□保育終了時に、保護者に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	2
小計		34